



女性の就業に関する1万人調査 2023

20～49歳・既婚・子どもあり女性 就業者と非就業・就業意向者 10年前（2013年）、コロナ前（2019年）との比較レポート



本レポートは、株式会社リクルートの調査機関ジョブズリサーチセンターが行った「女性の就業に関する1万人調査2023」の結果から、働き方に影響を受けやすい20～49歳の既婚・子どもあり女性に着目し、10年前（2013年）、コロナ前（2019年）との比較を行いました。調査全体の結果については、[基本報告書](#)をご覧ください。

仕事と生活のバランス派よりも「生活中心に考えたい」がますます増加 休暇のとりやすさや希望する休日・勤務時間で働くことができるか、を重視している

※本レポートでは、20～49歳・既婚・子どもあり女性のうち、就業者と非就業だが就業意向がある者（本レポート内では、「意向者」と表記）に着目してより詳細に分析している。分析対象の詳細については、P3をご覧ください。

【結婚・出産と就業状況】

出産・育児と職業の状況は、「子どもができた後も就業継続」が2013年13.3%から2023年28.8%と増加しているが、「子どもができた後に退職」は、2013年46.6%から2023年40.6%と微減にとどまっている。（P5）

【現状と希望】

意向者の希望の就業形態は、「パート・アルバイト」が最も多く89.2%。「正社員・正職員」「契約社員」「派遣社員」などフルタイム勤務を想定した就業形態を希望する人が減少している。この背景には、働く日数や働く時間などに融通がきくことを重視していることが、「就業条件の重視項目」（P22）からうかがえる。（P6）

【仕事への意識】

就業者、意向者ともに、「生活中心」の傾向が強まっており、「生活中心」の内訳では、「どちらかという生活中心に考えたい」は減少し、「生活中心に考えたい」が増加している。コロナ禍を経て、より生活中心の志向になっている。（P15）

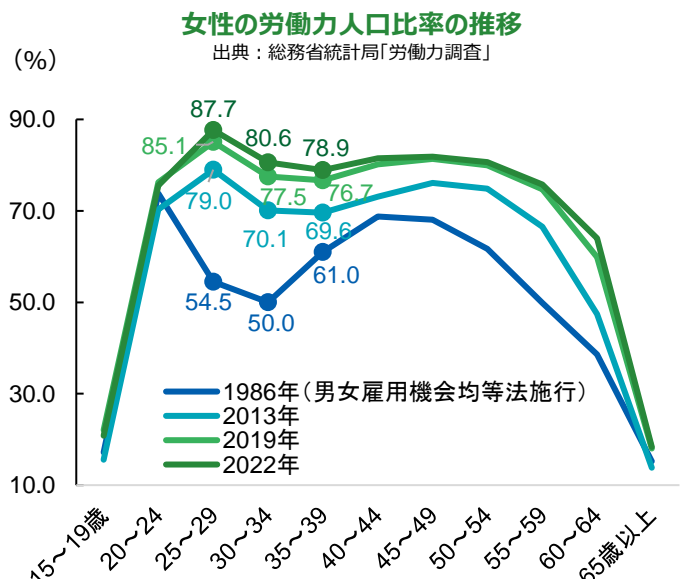
【仕事探し】

仕事探しの状況は、就業者では過去調査時から大きな変化はなく、約4割が仕事探しの経験あり。意向者は、2013年43.9%、2019年31.7%、2023年28.0%と減少している。仕事探しの経験ありの内訳は、特に就業者において、「仕事探しをして、新しい仕事が決まった」と回答した割合が78.5%まで増加した。仕事探しの割合は大きく変わっていない中、仕事は決まりやすい状況に変わっていることがうかがえる。（P19）

■女性の就業を取り巻く環境 10年間で女性の労働力人口比率は上昇

「M字カーブの底」といわれる30代の労働力人口比率は、2013年から最新データである2022年までの9年間で、約10pt上昇している。均等法施行時と比較すると、女性の就業参加は大幅に増加した。

M字カーブの解消が見られる一方、昨今は男性と比較した非正規率の高さや年収の低さなど、女性の就業の中身が問題視されている。10年間で女性の働き方はどのように変化したのか、女性にとっての理想的な働き方とはどのようなものか、本レポートで見していきたい。



目次

レポートの分析対象と留意点	3
回答者プロフィール	4
結婚・出産と就業状況	5

現状と希望

1. 就業形態	6
2. 職種	7
3. 年収	8
4. 就業者の就業調整	9
5. 通勤時間	10
6. 始業時間	11
7. 終業時間	12
8. 就業時間	13
9. 休日	14

仕事への意識

1. ワークライフバランスの重視度	15
2. 仕事をする目的	16
3. やりがいを感じる／失うとき	17
4. 意向者の就職への不安	18

仕事探し

1. 仕事探しの状況	19
2. 仕事探し時の情報源	20
3. 就業条件の重視項目	21
参考) 就業条件の重視項目 希望の就業形態別	22

調査概要

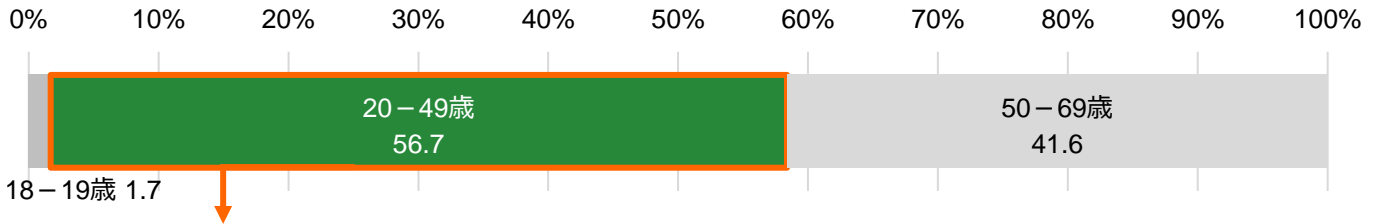
- 調査名 女性の就業に関する1万人調査 2023
- 調査方法 インターネット調査
- 調査期間 スクリーニング調査 2023/1/31(火)～2/2(木)
本調査 2023/2/14(火)～2/20(月)
- 調査対象 全国18～69歳の女性
- 回答者数 10,000人
※スクリーニング調査の結果を、国勢調査をもとに年代別の人口構成比に合わせて補正し、
年代×就業状況の出現率別に本調査の割付を設定
※本レポートは20～49歳の既婚・子どもあり女性を対象としている

※グラフと数表は、集計結果の小数点第2位を四捨五入して表示している

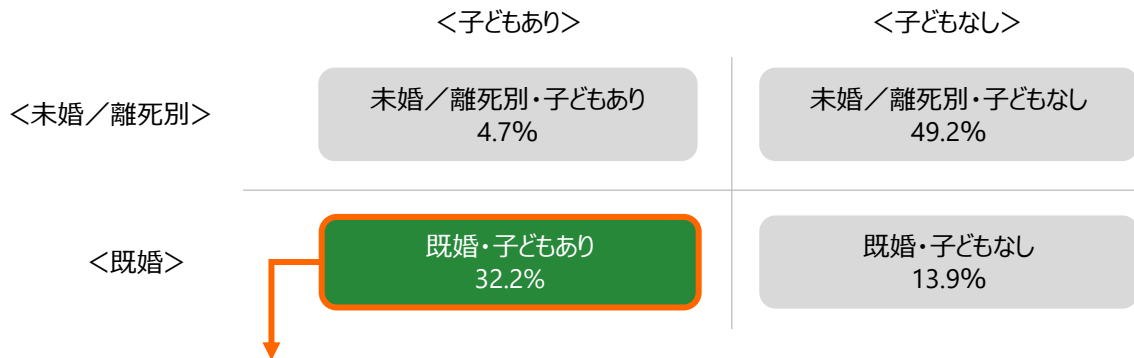
レポートの分析対象

- 20～49歳のうち、働き方の影響を受ける「子どもの有無」や婚姻状況でセグメントし、「既婚・子どもあり」を分析対象としている。その中でも、就業者と非就業者だが就業意向がある者（本レポート内では「意向者」と表記）に着目してより詳細に分析している。

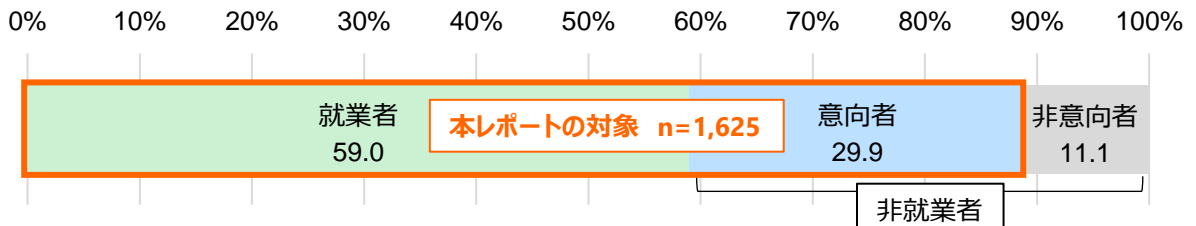
■全体の年齢割合（n=10,000）



■20～49歳の内訳（n=5,667）



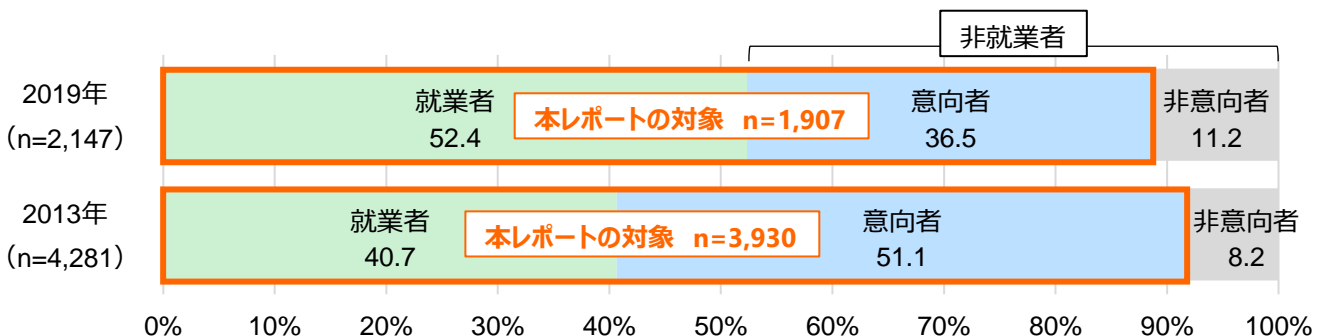
■20～49歳・既婚・子どもありの内訳（n=1,827）



※今後の就業について「すぐにでも/よい仕事があれば/いずれは職業を持ちたい」と回答した人を「意向者」、「職業を持つつもりはない」と回答した人を「非意向者」と表記している。

分析対象の留意点

- 2013年と2019年に実施した調査のうち、上記定義同様の「20～49歳・既婚・子どもあり」の内訳は下記の通り。2013年と比較して、2019年と2023年（上図参照）は非就業者の割合が減少、非就業者の中でも意向者の割合が減少しているため、分析対象数に差が出ていることに留意が必要。



回答者プロフィール

■ 年齢

(%)

		20～29歳	30～39歳	40～49歳
n=				
就業者	1,078	9.6	35.2	55.3
意向者	547	14.3	41.1	44.6

■ 同居している子どもの人数

		0人	1人	2人	3人以上
n=					
就業者	1,078	2.9	42.8	43.8	10.6
意向者	547	2.4	45.9	41.9	9.9

■ 末子の学齢

		小学校入学前	小学1～3年生	小学4～6年生	中学生	高校生以上
n=						
就業者	1,078	43.0	15.9	11.7	9.6	19.7
意向者	547	59.2	12.1	9.3	7.9	11.5

■ 就業者の現在の就業形態

		正社員・正職員	契約社員	パート・アルバイト	派遣社員	その他
n=						
就業者	1,078	40.4	3.3	51.3	1.6	3.4

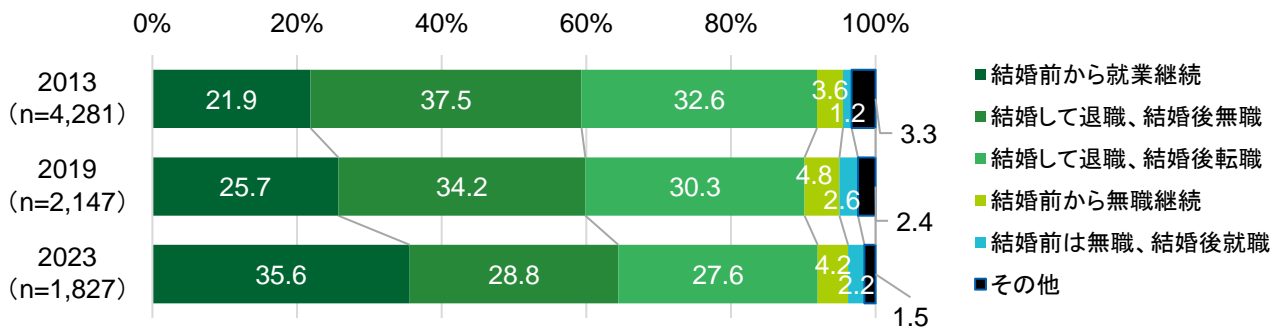
■ 非就業者の就業意向

		すぐにも 職業を持ちたい	よい仕事があれば 職業を持ちたい	いずれは 職業を持ちたい
n=				
意向者	547	10.8	41.7	47.5

- 結婚と職業の状況は、「結婚前から就業継続」が最も多く**35.6%**。2013年と2019年は「結婚して退職、結婚後無職」が最も多かったが、2023年は減少している。（上図）
- 出産・育児と職業の状況は、「子どもができた後も就業継続」が2013年13.3%から2023年28.8%と増加しているが、「子どもができた後に退職」は、**2013年46.6%から2023年40.6%と微減**にとどまっている。（中央図）

Q. 結婚と職業の状況についてお聞きます。あなたの状況に近いものをひとつお選びください。（単一回答）

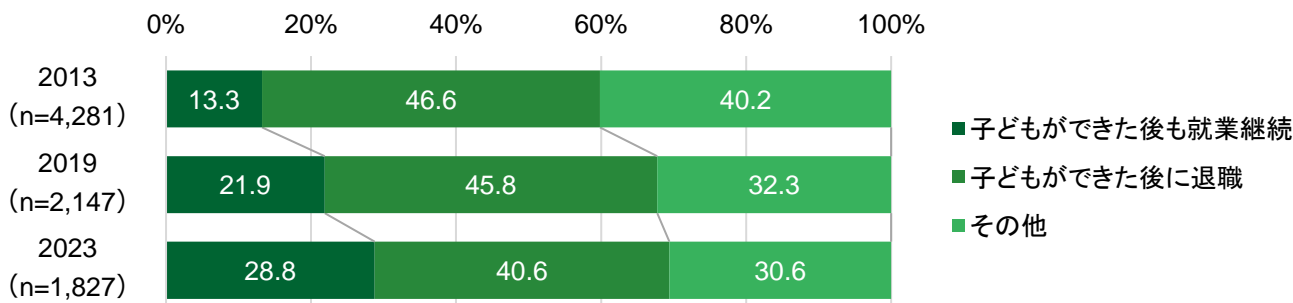
【対象者：20～49歳・既婚・子どもあり】



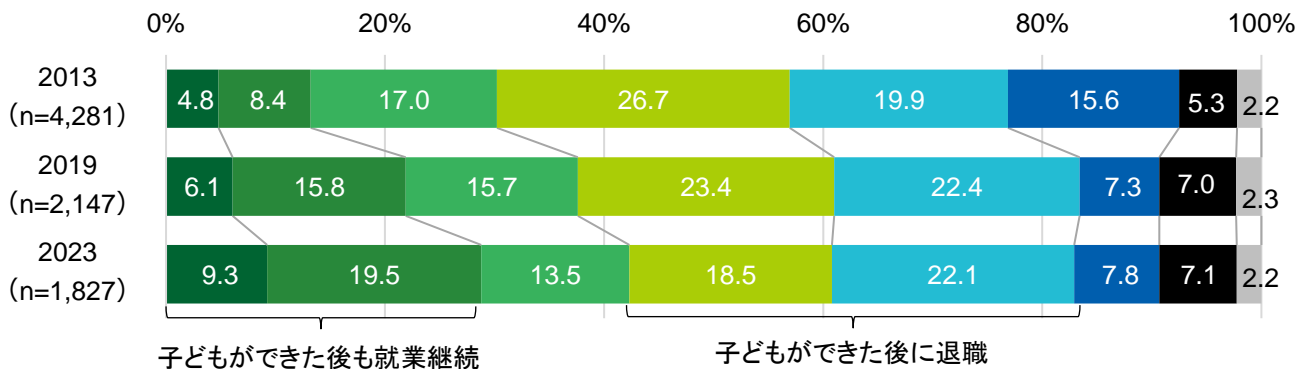
Q. 出産・育児と職業の状況についてお聞きます。あなたの状況に近いものをひとつお選びください。

※複数お子様がいらっしゃる方は、末子のお子様のお産・育児についてお答えください。（単一回答）

【対象者：20～49歳・既婚・子どもあり】



■ 出産・育児と就業状況の詳細



- 子どもができて産休のみ取得し、就業継続
- 子どもができて産休・育児休暇を取得し、就業継続
- 子どもができる前に退職、その後無職
- 子どもができて退職、その後無職
- 子どもができて退職、その後転職
- 子どもができる前から無職継続
- 子どもができる前は無職、その後就職
- その他

※本ページは、20～49歳・既婚・子どもあり全体を対象としているため、非就業で就業意向のない者（P3「非意向者」）も含んでいる

- 就業者の現状の就業形態は、「パート・アルバイト」が最も多く51.3%、次いで「正社員・正職員」40.4%。産休・育休後の復職者が増加しているため、「正社員・正職員」が増加している。希望の就業形態も、「パート・アルバイト」51.3%が最も多い。希望の就業形態は、すべての就業形態で減少傾向だが、これは、**複数の就業形態を希望する割合が減り、現在の就業形態のみを希望する割合が増えた**ためである。
- 意向者の希望の就業形態は、「パート・アルバイト」が最も多く89.2%。「正社員・正職員」「契約社員」「派遣社員」などフルタイム勤務を想定した就業形態を希望する人が減少している。この背景には、働く日数や働く時間などに融通がきくことを重視していることが、「就業条件の重視項目」からうかがえる（P22）。

Q. あなたの現在の就業状況について最も当てはまるものをひとつだけお選びください。（単一回答）

Q. 就業形態について、希望するものをすべてお答えください。

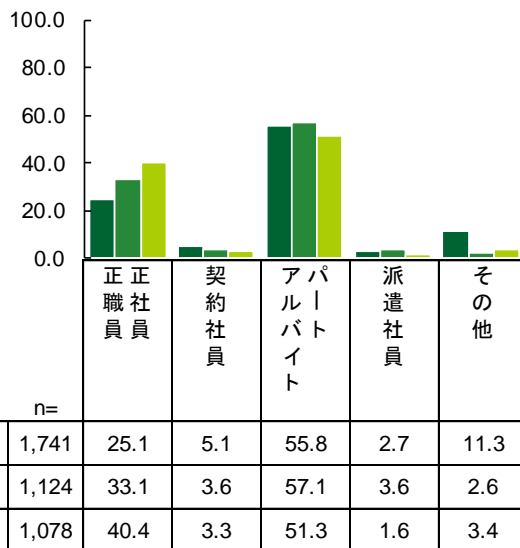
現在お仕事をされていない方は「今後仕事をする場合」についてお答えください。（複数回答）

【対象者：現状は就業者、希望は全員】

就業者

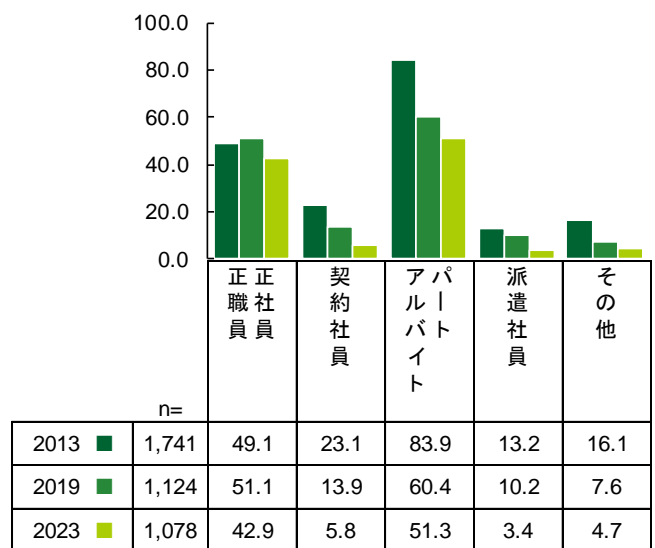
■ 現状

(%)



■ 希望

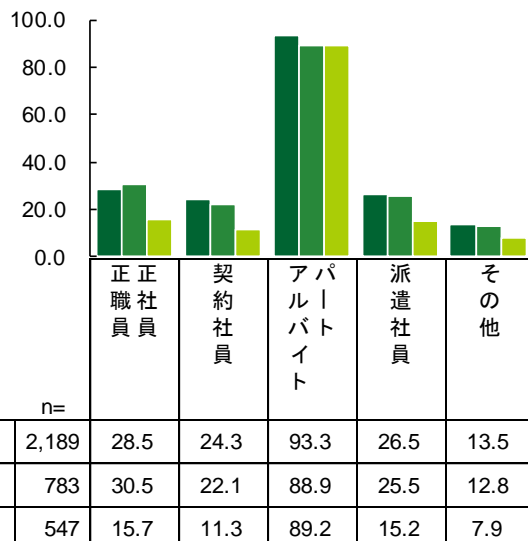
(%)



意向者

■ 希望

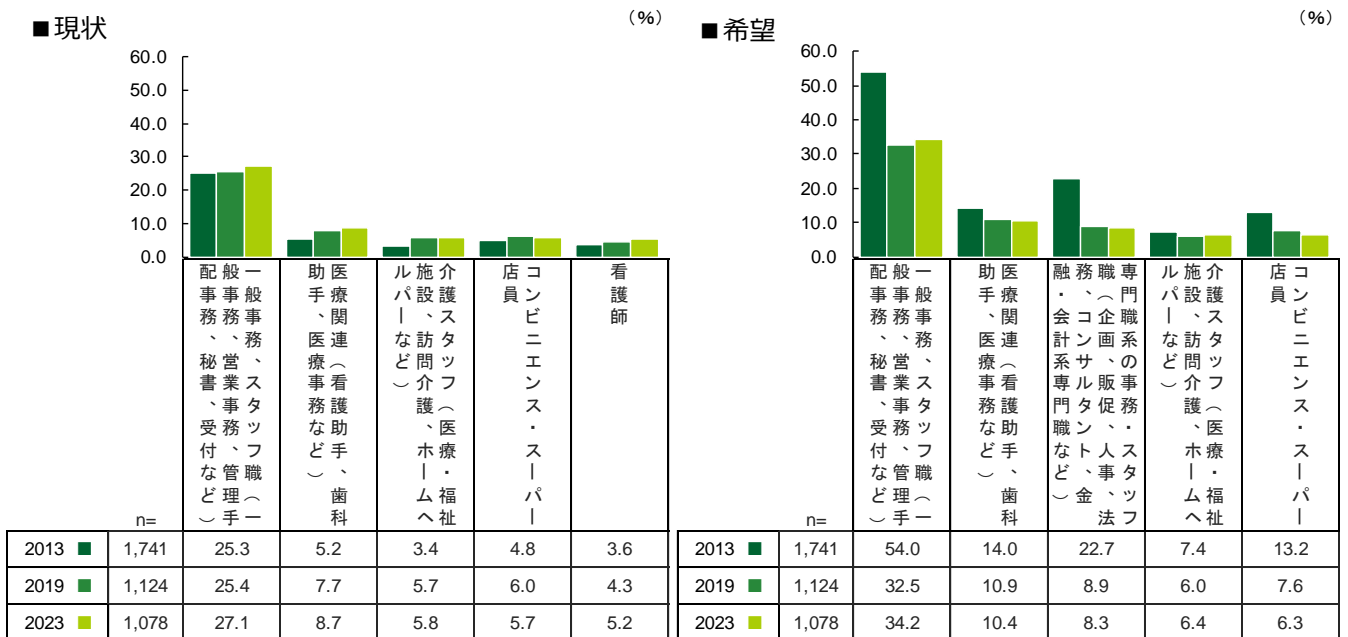
(%)



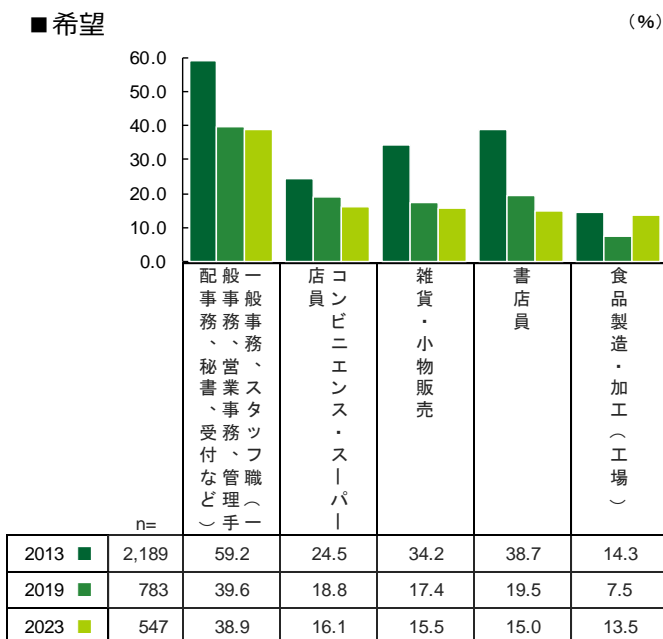
- 就業者の現状の職種・希望の職種ともに「一般事務、スタッフ職」が最も多い。この傾向は過去調査時から大きく変化していない。
- 意向者の希望の就業形態も、「一般事務、スタッフ職」が最も多く38.9%。2013年は他職種を希望する人も一定数いたが、2019年・2023年は、「一般事務、スタッフ職」と他職種との差が大きくなっている。

Q. 現在の職種をお答えください。複数のお仕事をしている場合は主としてお仕事についてお答えください。（単一回答）
 Q. 希望の職種をお答えください。現在お仕事をされていない方は「今後仕事をする場合」についてお答えください。（複数回答）
 【対象者：現状は就業者、希望は全員】

就業者



意向者



※上位5項目のみ掲載

- **就業者の現状の年収は、「100～200万円未満」が最も多く20.4%**。過去調査時から「100万円未満」が減少し、200万円以上が増加傾向である（2013年と比較して2019年・2023年は「答えたくない」の割合が大きく増えているため、留意が必要）。希望の年収は「200～400万円未満」31.4%が最も多く、**現年収より高い金額を希望している**ことがわかる。
- **意向者の希望の年収は、「100～200万円未満」が最も多く49.7%**。2013年と比較すると「100万円未満」を希望する人が大きく減少している。

Q. あなたの現在の年収をお答えください。また、あなたの希望の年収をお答えください。（数値回答）

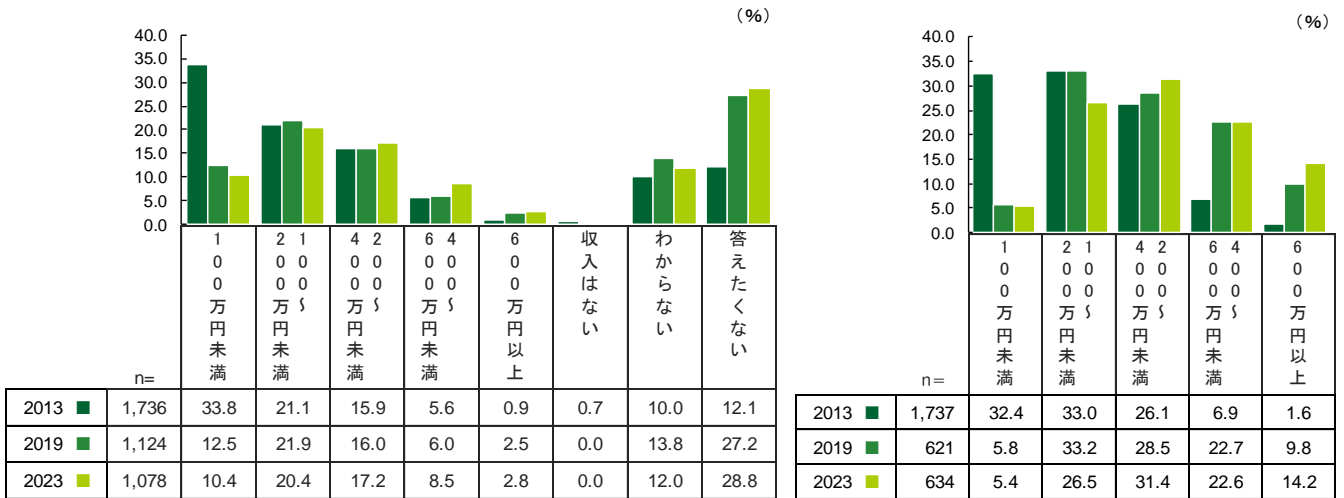
【対象者：現状は就業者、希望は全員*】

*2013年の希望は「わからない」「答えたくない」非聴取のため、2019年・2023年も2項目を除いて再集計している

就業者

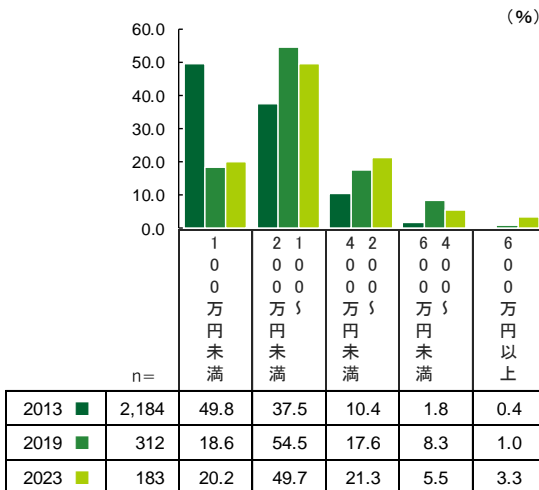
■ 現状

■ 希望



意向者

■ 希望



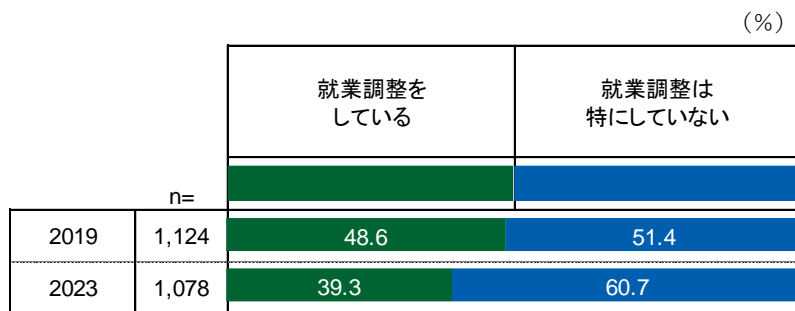
※2019年・2023年は「わからない」「答えたくない」と回答した人が一定数いたため、留意が必要

4. 就業者の就業調整

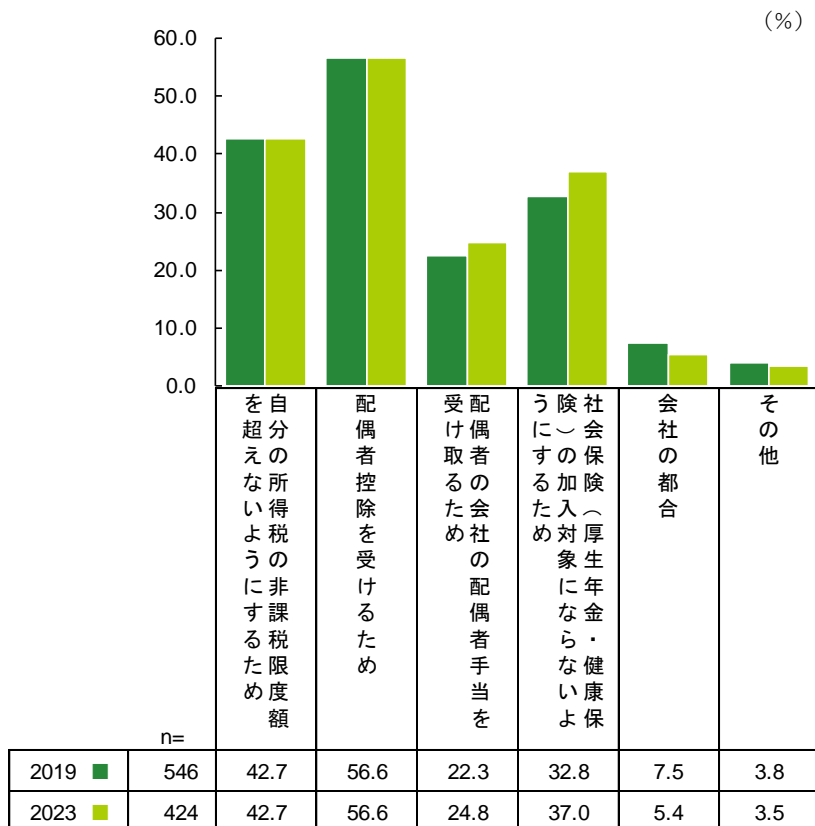
- 就業者の就業調整の状況は、「就業調整は特にしていない」が**60.7%**。2019年から就業調整をしていない割合が増加している。
- 「就業調整をしている」の内訳は、「配偶者控除を受けるため」が**最も多く56.6%**。2019年も同項目が一番多いが、「**社会保険（厚生年金・健康保険）の加入対象にならないようにするため**」が**2019年より増加している**。
参考）社会保険の適用範囲 2016年10月に501人以上の企業に拡大、2022年10月に101人以上の企業に拡大

Q. あなたが就業調整をしている場合、その理由について教えてください。あてはまるものをすべてお答えください。（複数回答）
【対象者：就業者】

就業者



■「就業調整をしている」の内訳



※2013年は選択肢の項目が大きく異なるため比較なし

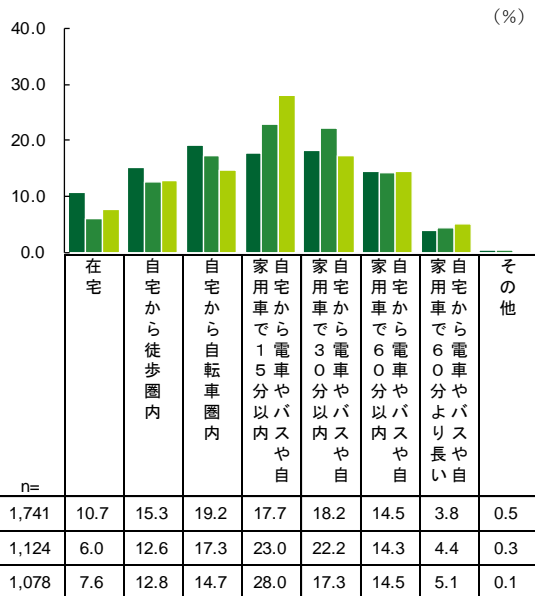
- 就業者の現状の通勤時間は、「15分以内」が最も多く28.0%。「自転車圏内」が最も多かった2013年から、通勤範囲が広がっていることがうかがえる。希望の通勤時間も同じく、「自転車圏内」以内の割合が減少し、「15分以内」が最も多くなっている。
- 意向者の希望の通勤時間は、「自転車圏内」が26.9%、次いで「15分以内」が25.2%と同程度。また、就業者と比較すると、意向者の方が、「在宅」を希望する人が増加している。

Q. あなたの職場までの通勤時間をお答えください。（単一回答）

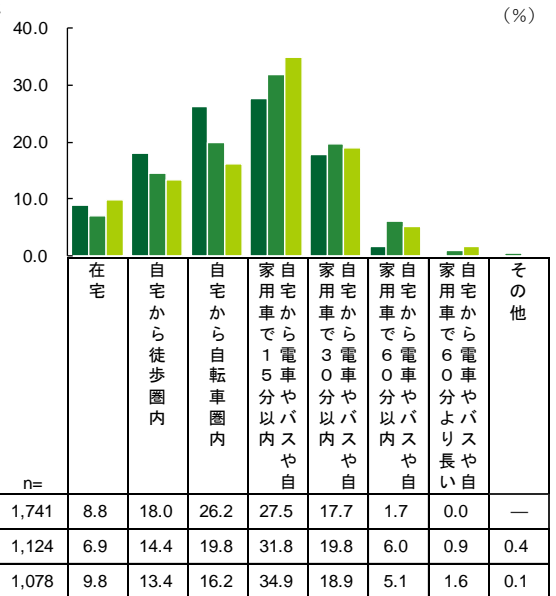
Q. また、あなたの希望の職場までの通勤時間をお答えください。（複数回答）【対象者：現状は就業者、希望は全員】

就業者

■ 現状

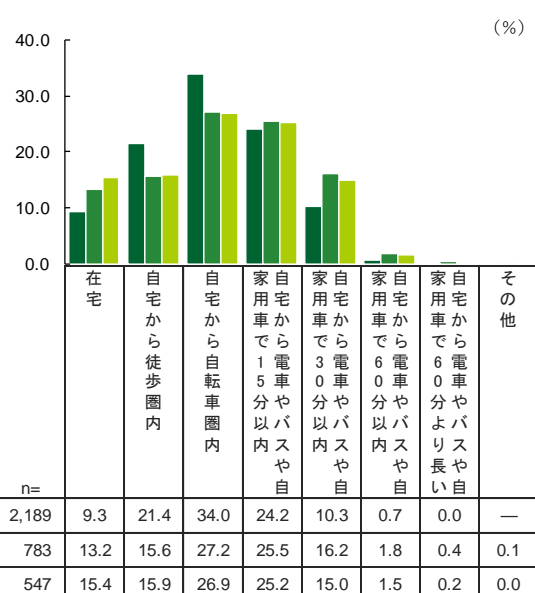


■ 希望



意向者

■ 希望



※2013年は希望の「その他」非聴取

- 就業者の現状の始業時間は、「9時台」が最も多く46.1%、次いで「8時台」31.9%。「10時台」「11時以降」が減少傾向にある。希望の始業時間も「9時台」が最も多く53.9%。
- 意向者の希望の始業時間は、「9時台」が最も多く57.1%。過去調査時から大きな変化はない。

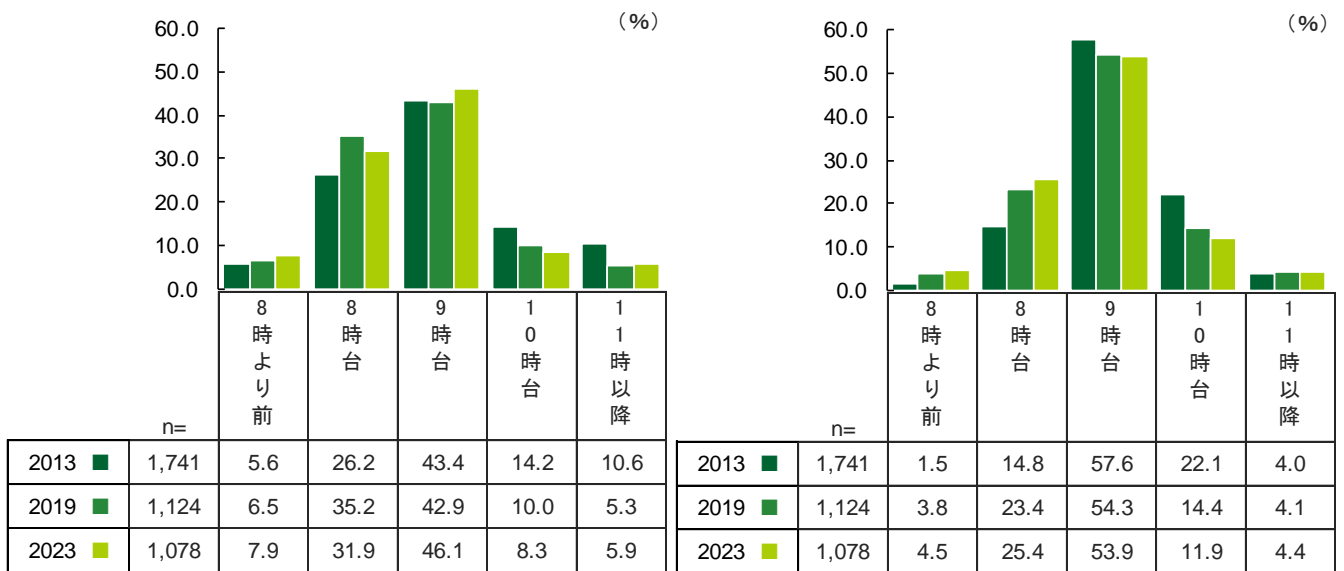
Q. あなたの職場の始業時間をお答えください。（単一回答）

Q. また、あなたの希望の始業時間をお答えください。（複数回答）【対象者：現状は就業者、希望は全員】

就業者

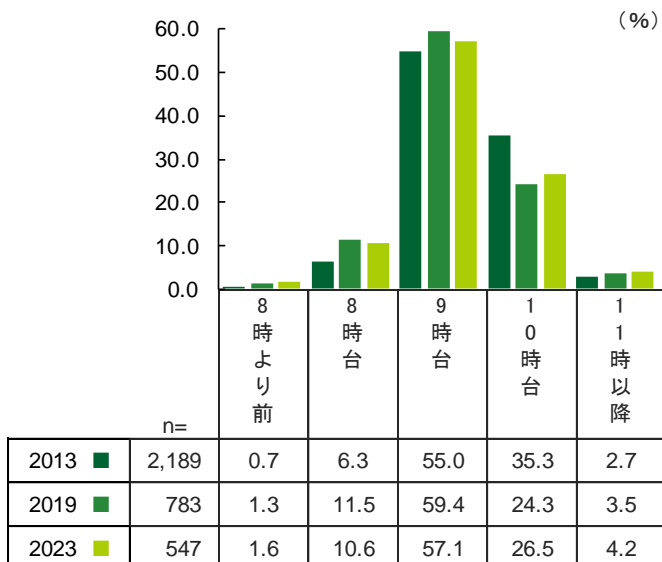
■ 現状

■ 希望



意向者

■ 希望



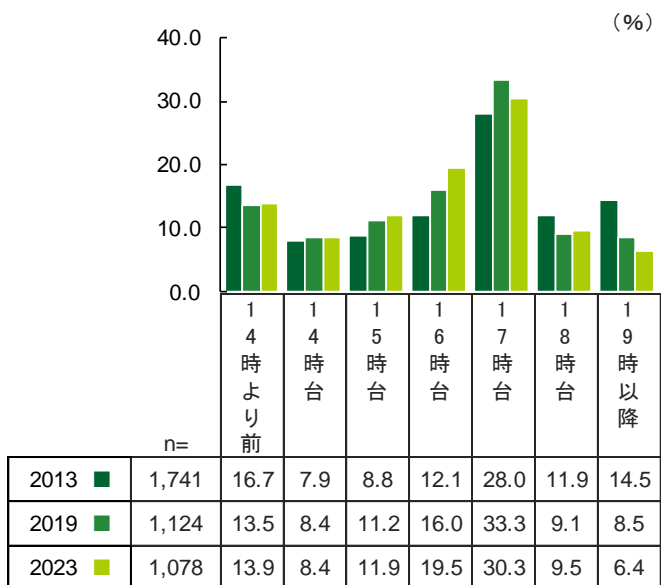
- 就業者の現状の終業時間は、「17時台」が最も多く30.3%。「14時台」～「16時台」が少しずつ増加している。希望の終業時間は同じく「17時台」が最も多く30.0%。「18時台」「19時以降」は減少している。
- 意向者の希望の終業時間は、「14時より前」～「15時台」がそれぞれ約2割と同程度。「14時台」以前が増加し、「15時台」以降が減少している。

Q. あなたの職場の終業時間をお答えください。（単一回答）

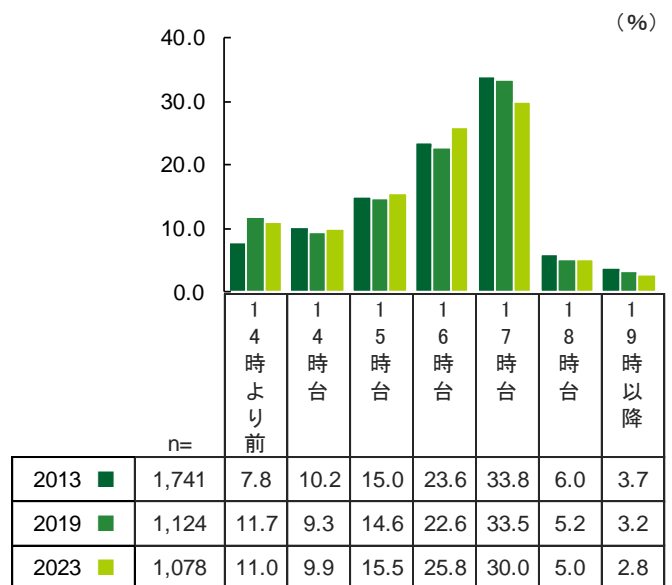
Q. また、あなたの希望の終業時間をお答えください。（複数回答）【対象者：現状は就業者、希望は全員】

就業者

■ 現状

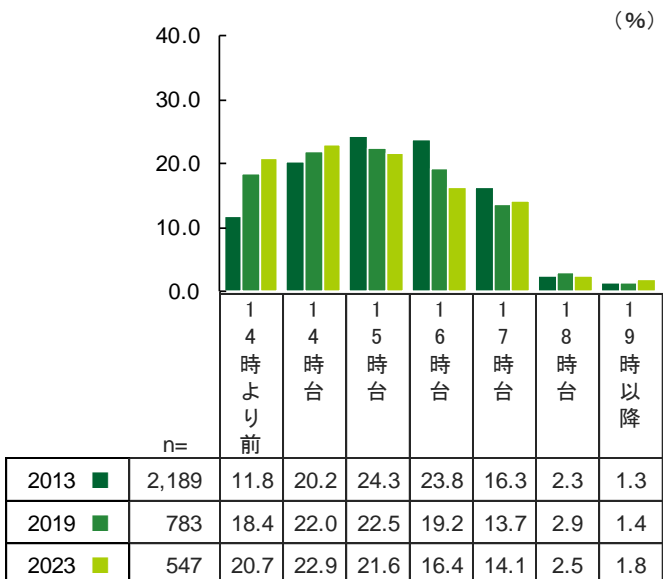


■ 希望



意向者

■ 希望

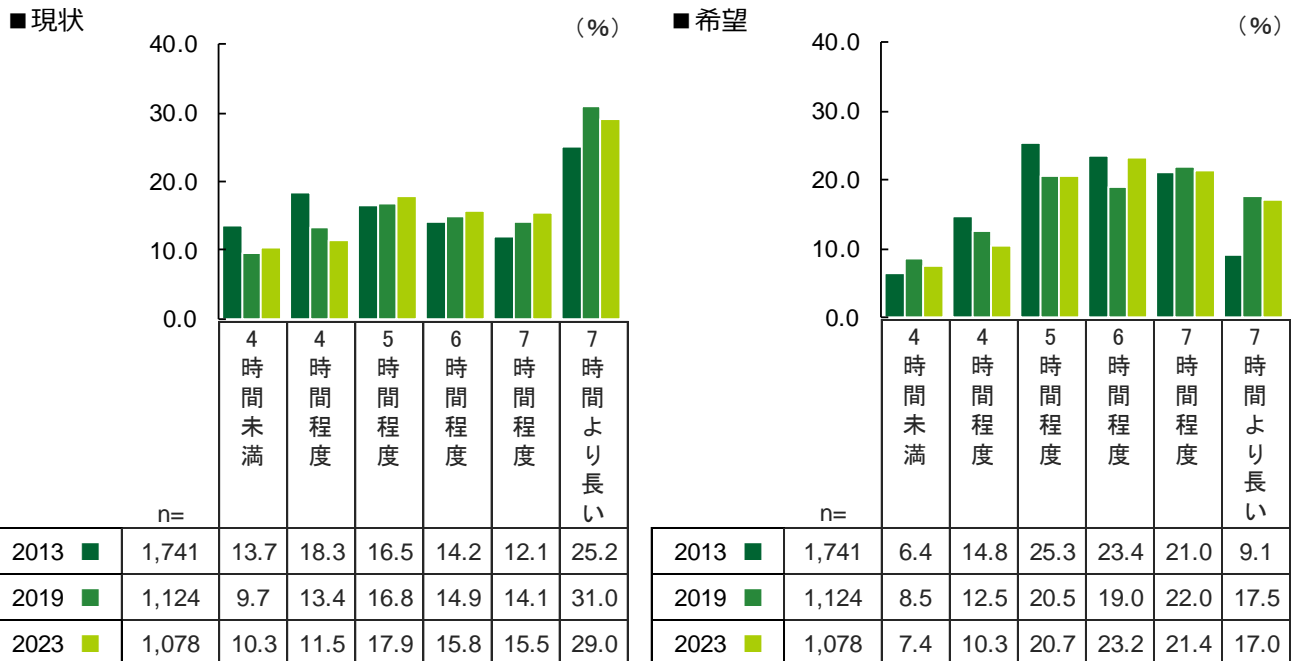


- 就業者の現状の就業時間は、「7時間より長い」が最も多く29.0%。正規雇用の増加（P6）などの影響で、「4時間程度」が減少傾向であり、就業時間が長くなっている。希望の就業時間は「5時間程度」～「7時間程度」がそれぞれ約2割であり、現状よりも短い就業時間を希望していることがうかがえる。
- 意向者の希望の就業時間は、「4時間程度」「5時間程度」がそれぞれ約3割。

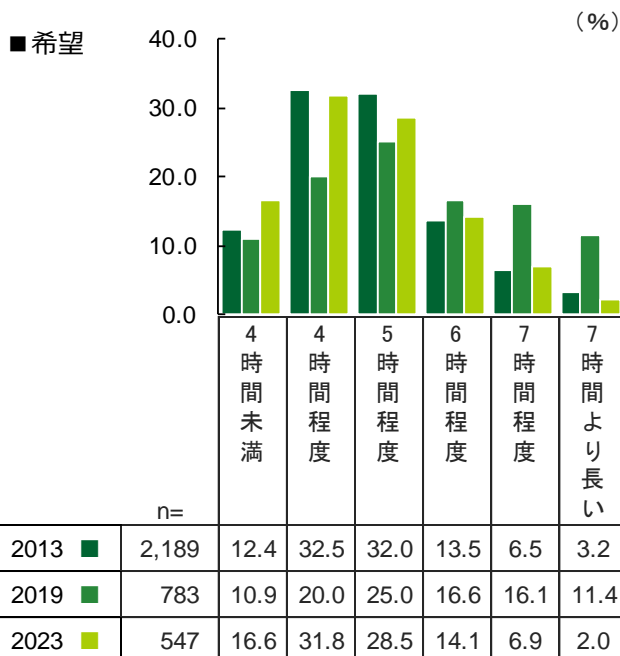
Q. あなたの職場の就業時間をお答えください。（単一回答）

Q. また、あなたの希望の就業時間をお答えください。（複数回答）【対象者：現状は就業者、希望は全員】

就業者



意向者



- 就業者の現状の休日は、「日曜日」85.7%が最も多く、次いで「土曜日」70.7%。過去調査時から平日が減少し、「土曜日」「日曜日」が増加している。希望の休日は、「日曜日」89.5%、次いで「土曜日」82.4%と現状・希望ともに「日曜日」が8割を超える。
- 意向者の希望の休日は、「土曜日」「日曜日」が8割を超える。平日では、「月曜日」「水曜日」を希望する人が増加傾向。

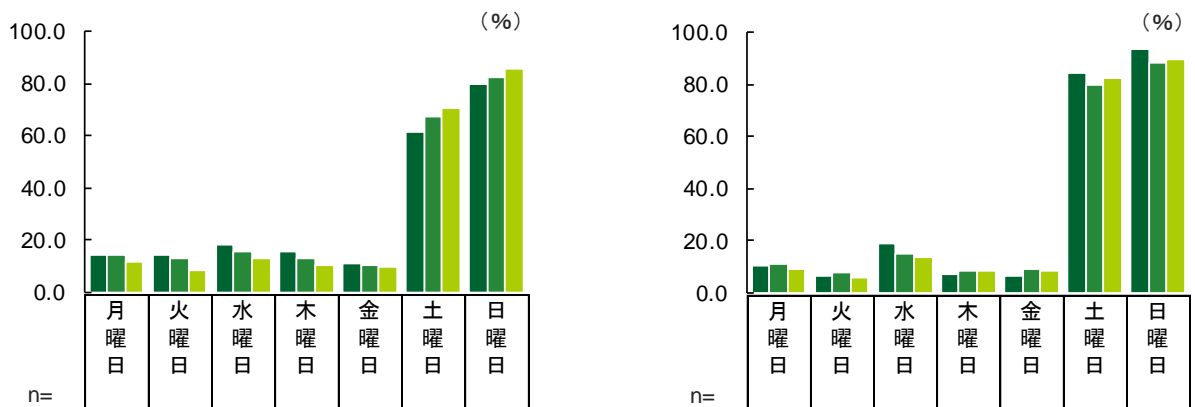
Q. あなたの職場の休日をお答えください。（複数回答）

Q. また、あなたの希望の休日をお答えください。（複数回答）【対象者：現状は就業者、希望は全員】

就業者

■ 現状

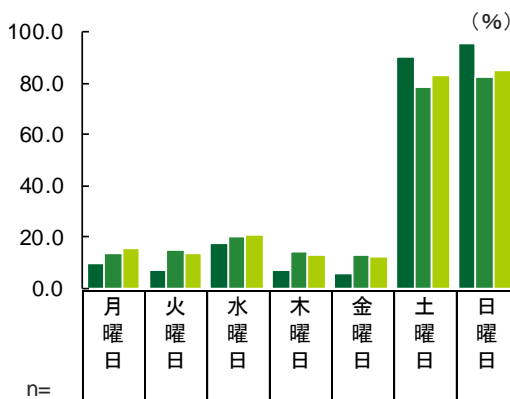
■ 希望



年	n	現状 (%)							希望 (%)						
		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
2013	1,741	14.5	14.4	18.4	15.9	10.7	61.7	79.7	10.2	6.7	18.8	7.0	6.5	84.3	93.3
2019	1,124	14.1	13.3	15.8	13.1	10.2	67.6	82.4	10.9	7.7	15.2	8.8	9.0	80.1	88.3
2023	1,078	11.5	8.4	12.8	10.4	9.6	70.7	85.7	9.2	6.0	13.5	8.2	8.4	82.4	89.5

意向者

■ 希望



年	n	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
2013	2,189	10.1	7.4	17.5	7.3	5.8	90.5	95.6
2019	783	14.0	14.9	20.4	14.4	12.9	78.7	82.6
2023	547	15.4	13.7	21.0	12.8	12.6	83.4	85.2

- 就業者は、「仕事と生活のバランスが取れるようにしたい」が40.0%と最も多いが、その割合は過去調査時から減少しており、「生活中心に考えたい」が増加している。
- 意向者は、「生活中心に考えたい」が44.6%と最も多く、増加している。
- **就業者、意向者ともに、「生活中心」の傾向が強まっており**、「生活中心」の内訳では、「どちらかという让生活中心に考えたい」は減少し、「生活中心に考えたい」が増加している。コロナ禍を経て、より生活中心の志向になっていることがうかがえる。

Q. あなたは、仕事と生活について、どちらを中心に考えたいですか。（単一回答）

【対象者：全員】

就業者

(%)

		n=	仕事中心に考えたい	どちらかという仕事中心に考えたい	仕事と生活のバランスが取れるようにしたい	どちらかという让生活中心に考えたい	生活中心に考えたい
就業者	2013	1,741	1.3 3.8	56.5		27.3	11.0
	2019	1,124	2.6 5.6	42.9		26.0	23.0
	2023	1,078	1.1 3.9	40.0		25.2	29.8

意向者

(%)

		n=	仕事中心に考えたい	どちらかという仕事中心に考えたい	仕事と生活のバランスが取れるようにしたい	どちらかという让生活中心に考えたい	生活中心に考えたい
意向者	2013	2,189	0.2 0.9	38.5		38.8	21.5
	2019	783	0.9 2.4	30.7		32.8	33.2
	2023	547	0.5 0.7	23.0		31.1	44.6

- 就業者、意向者ともに、「貯蓄、貯金をするため」が最も多く、「生計の維持（生活費や学費等を稼ぐ）のため」「自由に使えるお金（小遣い）の確保のため」と続く。「**経済的に自立するため**」が2013年・2019年と比較して、上位に上がってきている。

Q. あなたにとって仕事をする目的は何ですか。
現在の仕事に限らず、あなたが考える目的としてあてはまるものをすべてお答えください。（複数回答）
【対象者：全員】

就業者

	2023	(%)	2019	2013
1位	貯蓄、貯金をするため	49.6	3位(↑)	2位(↑)
2位	生計の維持(生活費や学費等を稼ぐ)のため	44.8	1位(↓)	1位(↓)
3位	自由に使えるお金(小遣い)の確保のため	32.5	2位(↓)	3位(→)
4位	社会とのつながりを得るため	22.8	4位(→)	5位(↑)
5位	経済的に自立するため	22.7	9位(↑)	13位(↑)
6位	自分が成長するため	16.4	5位(↓)	6位(→)
7位	ローンなどの返済のため	16.2	7位(→)	9位(↑)
8位	大きな買い物の出費に備えるため	13.8	8位(→)	4位(↓)
9位	働くことが好きだから	12.9	10位(↑)	10位(↑)
10位	旅行の費用を稼ぐため	12.7	6位(↓)	11位(↑)

意向者

	2023	(%)	2019	2013
1位	貯蓄、貯金をするため	60.3	3位(↑)	1位(→)
2位	生計の維持(生活費や学費等を稼ぐ)のため	45.7	1位(↓)	2位(→)
3位	自由に使えるお金(小遣い)の確保のため	40.2	2位(↓)	3位(→)
4位	経済的に自立するため	20.7	9位(↑)	10位(↑)
5位	社会とのつながりを得るため	19.6	5位(→)	6位(↑)
6位	自分が成長するため	14.6	8位(↑)	5位(↓)
7位	大きな買い物の出費に備えるため	12.6	4位(↓)	4位(↓)
8位	ローンなどの返済のため	11.7	7位(↓)	9位(↑)
9位	旅行の費用を稼ぐため	11.0	6位(↓)	8位(↓)
10位	視野を広げるため	10.2	10位(→)	7位(↓)

※2013年は「かなりあてはまる/ややあてはまる/どちらともいえない/あてはまらない/まったくあてはまらない」で聴取し、TOP2の合計で順位付け
※緑字：2013年・2019年から4位以上の順位変動あり

- やりがいを感じるときは、「人に感謝されたとき」が最も多く40.9%。2013年・2019年も同項目が1位であった。「自分についての良い風評を耳にしたとき」が2013年・2019年と比較して上位に上がっている。
- やりがいを失うときは、「不合理な理由で失脚されたとき」が最も多く29.6%。2013年・2019年も同項目が1位であった。「失敗したとき」「成果に見合った報酬が得られないとき」「忙しすぎる時」「意味がわからない仕事をさせられたとき」が2013年・2019年と比較して上位に上がっており、「評価に差別を感じたとき」「自分の仕事の成果を認めてもらえないとき」「期待されていないと感じたとき」など2013年・2019年は上位だったものの順位が下がっている。

Q. あなたが、仕事でやりがいを感じるときはどんなときが多い（多かった）ですか。
 あなたが、仕事でやりがいを感じるときはどんなときが多い（多かった）ですか。（複数回答）
 【対象者：就業経験のある者】

やりがいを感じる時

	2023	(%)	2019	2013
1位	人に感謝されたとき	40.9	1位(→)	1位(→)
2位	与えられた仕事をミスなくこなしたとき	25.9	2位(→)	2位(→)
3位	上司に褒められたとき	19.7	3位(→)	3位(→)
4位	報奨金・臨時ボーナスなどを得たとき	18.6	7位(↑)	7位(↑)
5位	自分の目標を達成したとき	18.0	4位(↓)	4位(↓)
6位	自分についての良い風評を耳にしたとき	17.4	11位(↑)	12位(↑)
7位	昇給したとき	16.5	9位(↑)	9位(↑)
8位	上司に頼られたとき	16.0	8位(→)	8位(→)
9位	同僚に褒められたとき	15.1	6位(↓)	6位(↓)
10位	同僚に頼られたとき	14.9	10位(→)	10位(→)

やりがいを失う時

	2023	(%)	2019	2013
1位	不合理な理由で叱責されたとき	29.6	1位(→)	1位(→)
2位	失敗したとき	27.3	7位(↑)	4位(↑)
3位	成果に見合った報酬が得られないとき	22.3	5位(↑)	9位(↑)
4位	忙しすぎる時	21.1	10位(↑)	12位(↑)
5位	意味がわからない仕事をさせられたとき	20.9	9位(↑)	8位(↑)
6位	セクシャルハラスメントやパワーハラスメントにあったとき	20.6	4位(↓)	6位(→)
7位	評価に差別を感じたとき	20.1	3位(↓)	2位(↓)
8位	自分の仕事の成果を認めてもらえないとき	18.0	2位(↓)	3位(↓)
9位	期待されていないと感じたとき	17.6	6位(↓)	5位(↓)
10位	自分以外の人へのひいきがあったとき	15.4	8位(↓)	7位(↓)

※緑字：2013年・2019年から4位以上の順位変動あり

- 意向者の就職への不安は、「家事と両立させることができるか」55.4%が最も多く、次いで「育児と両立させることができるか」51.4%、「子どもがいることによって仕事が見つけにくいのではないか」40.8%が続く。「離職期間が長いことによって感じる不安」は2019年から順位を下げている。

Q. 就職にあたりどのようなことが不安に思われますか。（複数回答）【対象者：意向者】

意向者

	2023	(%)	2019
1位	家事と両立させることができるか	55.4	2位(↑)
2位	育児と両立させることができるか	51.4	1位(↓)
3位	子どもがいることによって仕事が見つけにくいのではないか	40.8	5位(↑)
4位	有事の際に早退や休むことができるかどうか	39.1	6位(↑)
5位	人間関係においてうまくやっていけるか	38.4	3位(↓)
6位	体力面で感じる不安	34.7	9位(↑)
7位	新たに仕事を覚えることができるか	30.9	8位(↑)
8位	離職期間が長いことによって感じる不安	30.2	4位(↓)
9位	家族に負担を与えてしまうのではないか	27.2	11位(↑)
10位	仕事をするにあたって足手まといにならないか	25.6	15位(↑)

※2013年は非聴取

※緑字：2019年から4位以上の順位変動あり

- 仕事探しの状況は、就業者では過去調査時から大きな変化はなく、約4割が仕事探しの経験あり。意向者は、2013年43.9%、2019年31.7%、2023年28.0%と減少している。
- 仕事探しの経験ありの内訳は、特に就業者において、「仕事探しをして、新しい仕事が決まった」と回答した割合が78.5%まで増加した。仕事探しの割合は大きく変わっていない中、仕事は決まりやすい状況に変わっていることがうかがえる。

Q. 最近1年間（2022年3月～2023年2月）に仕事探しをしましたか。最も状況に近いものをひとつお答えください。（単一回答）【対象者：全員】

(%)

			仕事探しの経験あり	過去1年間、仕事探しはしていない
n=				
就業者	2013	1,741	35.4	64.6
	2019	1,124	33.5	66.5
	2023	1,078	35.0	65.0

意向者	2013	2,189	43.9	56.1
	2019	783	31.7	68.3
	2023	547	28.0	72.0

■「仕事探しの経験あり」の内訳

(%)

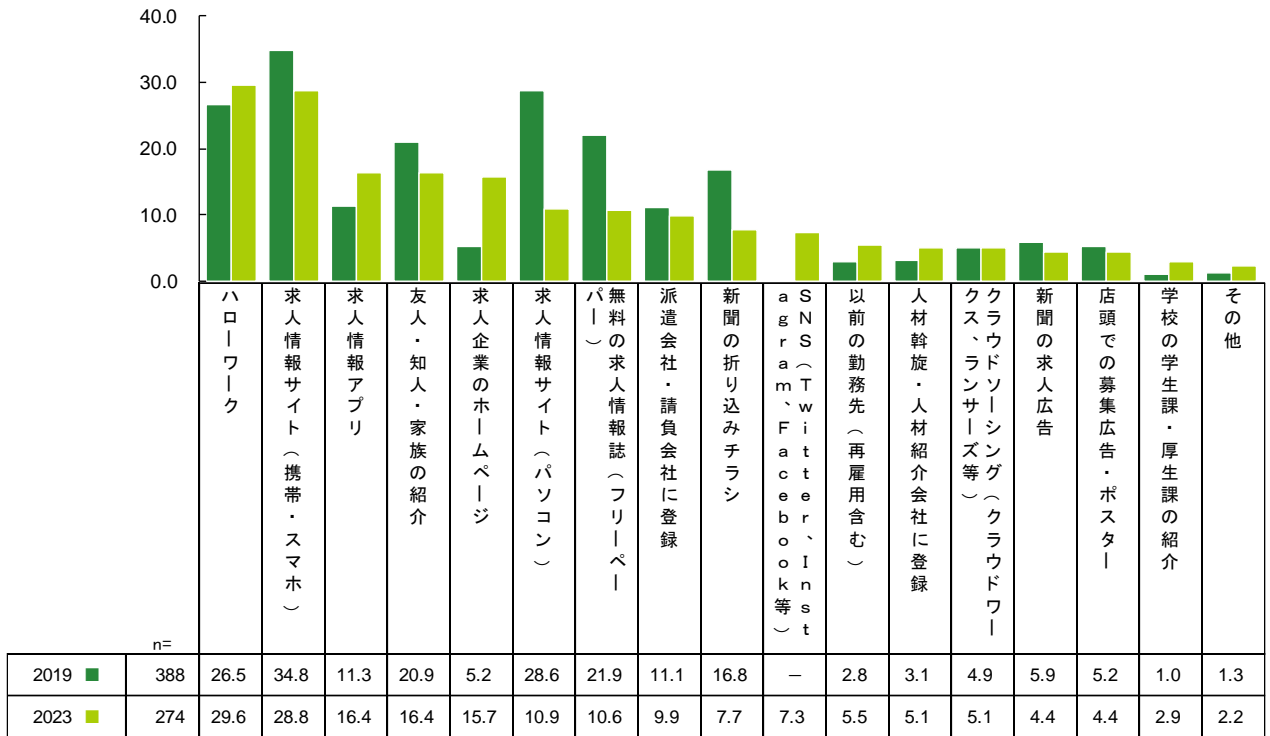
			仕事探しをして、新しい仕事が決まった	仕事探しをしたが、見つからずに、現在も仕事探しの最中	仕事探しをしたが、見つからずに、現在は仕事探しをやめている	仕事探しを始めたばかり
n=						
就業者	2013	617	55.1	22.2	14.6	8.1
	2019	377	42.7	26.0	19.4	11.9
	2023	377	78.5	9.0	6.1	6.4

意向者	2013	962	6.8	37.6	34.1	21.5
	2019	248	16.1	29.0	22.2	32.7
	2023	153	9.8	34.6	22.9	32.7

- 仕事探し時に利用した情報源は「ハローワーク」が最も多く29.6%、次いで「求人情報サイト（携帯・スマホ）」28.8%。
- 仕事を決めた情報源は、「求人情報サイト（携帯・スマホ）」が最も多く20.1%。
- 利用した情報源・決めた情報源ともに、「求人情報アプリ」「求人企業のホームページ」が増加している。一方で、「求人情報サイト（パソコン）」「無料の求人情報誌（フリーペーパー）」「新聞の折り込みチラシ」などは減少。
- 2023年に選択肢に追加した「SNS（Twitter、Instagram、Facebook等）」も一定数利用されていることが分かる。

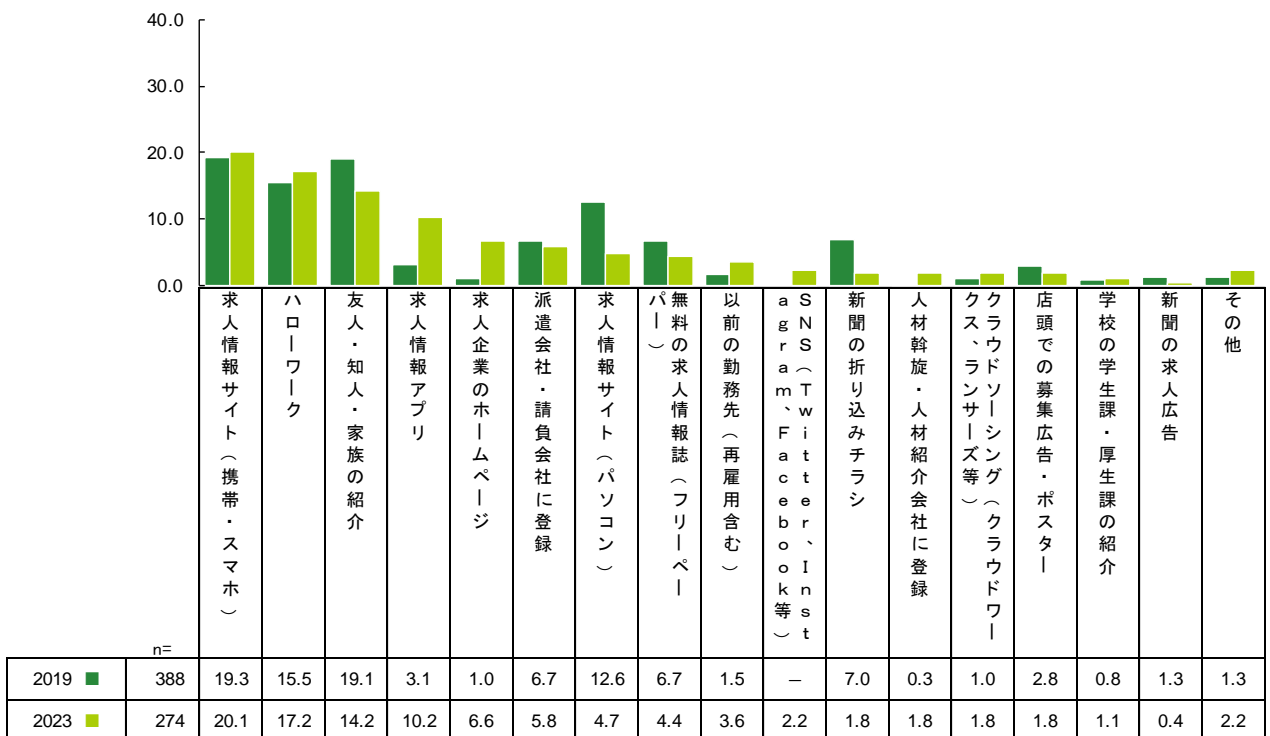
Q. 現在のお仕事を決めた際に利用した情報源・方法をお答えください。（複数回答）【対象者：直近1年間の入職者】

(%)



Q. また、お仕事を決めた情報源・方法をお答えください。（単一回答）【対象者：直近1年間の入職者】

(%)



※2013年は非聴取、2019年は「SNS」非聴取、2023年の値を基準に降順で並び替え

- 就業者の就業条件の重視項目は、「休暇をとりやすいこと」「安心して働けそうであること」「転勤が無いこと」「希望する休日、残業、勤務時間であること」が3割を超える。
- 意向者の就業条件の重視項目は、「希望する休日、残業、勤務時間であること」「休暇をとりやすいこと」「転勤が無いこと」が上位3つであった。
- 就業者、意向者ともに、「転勤が無いこと」が1位だった2013年・2019年から順位が変化した。また、「安心して働けそうであること」が上位に上がってきており、コロナ禍での意識の変化がうかがえる。

Q. 仕事を選ぶ際に以下の条件をどの程度重視しますか。（複数回答）【対象者：全員】

就業者

	2023	(%)	2019	2013
1位	休暇をとりやすいこと	31.8	2位(↑)	4位(↑)
2位	安心して働けそうであること	31.2	4位(↑)	10位(↑)
3位	転勤が無いこと	30.0	1位(↓)	1位(↓)
4位	希望する休日、残業、勤務時間であること	30.0	7位(↑)	8位(↑)
5位	長く働けそうであること	27.8	5位(→)	5位(→)
6位	通勤の便が良いこと	26.6	3位(↓)	2位(↓)
7位	交通費が全額支給であること	26.2	11位(↑)	11位(↑)
8位	希望する勤務地であること	25.7	6位(↓)	3位(↓)
9位	希望する職種、仕事内容であること	21.0	9位(→)	7位(↓)
10位	希望する業種であること	19.7	10位(→)	9位(↓)

意向者

	2023	(%)	2019	2013
1位	希望する休日、残業、勤務時間であること	46.8	2位(↑)	3位(↑)
2位	休暇をとりやすいこと	46.4	3位(↑)	2位(→)
3位	転勤が無いこと	45.0	1位(↓)	1位(↓)
4位	安心して働けそうであること	44.1	7位(↑)	9位(↑)
5位	勤務する時間が選べること	43.3	8位(↑)	8位(↑)
6位	勤務する曜日が選べること	41.7	6位(→)	6位(→)
7位	働く日数を選べること	36.9	10位(↑)	10位(↑)
8位	希望する勤務地であること	36.4	4位(↓)	5位(↓)
9位	通勤の便が良いこと	34.0	5位(↓)	4位(↓)
10位	通勤時間が短いこと	34.0	9位(↓)	7位(↓)

※2013年は「非常に重視する/重視する/どちらともいえない/あまり重視しない/重視しない」の5段階で聴取
 2019年・2023年は「たいへん重視する/重視する/やや重視する/あまり重視しない/まったく重視しない」の5段階で聴取
 ※緑字：2013・2019から4位以上の順位変動あり

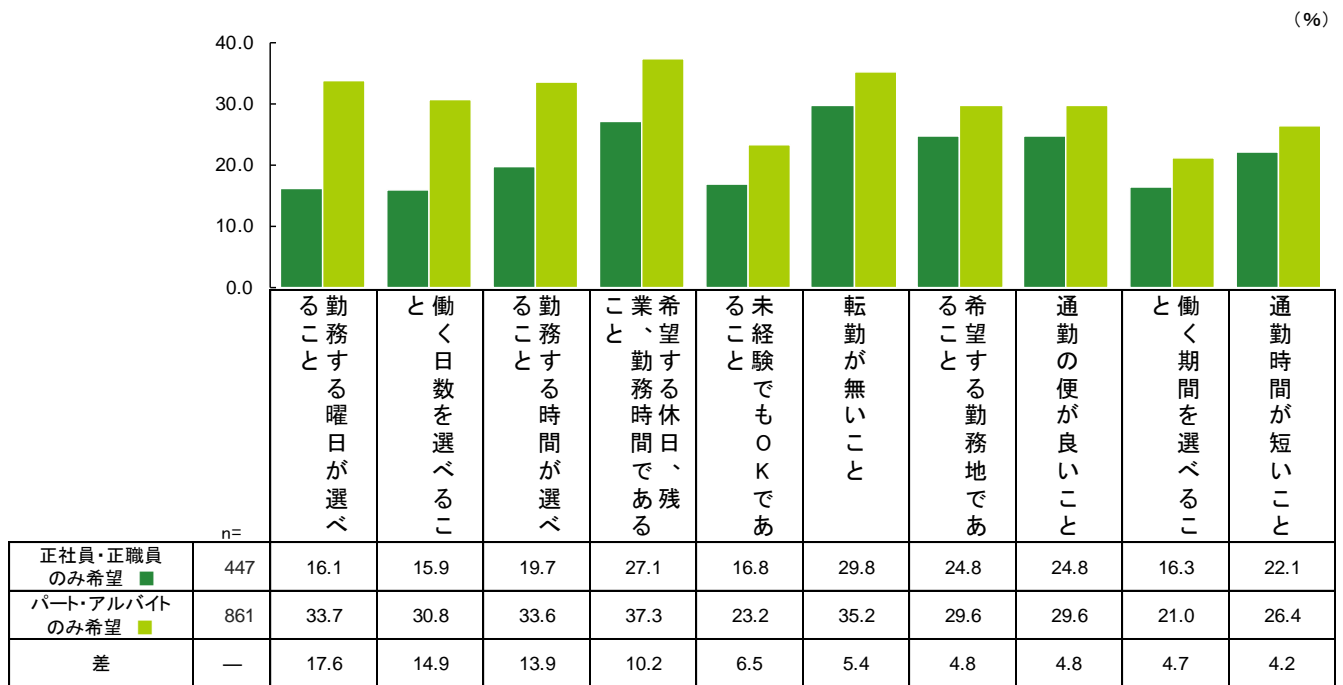
- 希望の就業形態別に就業条件の重視項目をみると、「パート・アルバイト」のみを希望している人は、「正社員・正職員」のみを希望している人と比較して、「勤務する曜日」「働く日数」「勤務する時間」が選べることといった柔軟性高く働けることを重視していることが分かる。一方で、「正社員として働けること」「社会保険が完備されていること」「福利厚生が充実していること」などを重視している人は「正社員・正職員」のみ希望している人と比較して少ない。

Q. 仕事を選ぶ際に以下の条件をどの程度重視しますか。(複数回答)

【対象者：正社員・正職員のみ希望している者／パート・アルバイトのみ希望している者】

希望の就業形態(P6)のうち「正社員・正職員」のみを希望している人と、「パート・アルバイト」のみを希望している人で比較をした。差が大きいものを、降順(上図)と昇順(下図)で示した。

パート・アルバイトのみ希望者の方が多く重視している項目(差の降順)



正社員・正職員のみ希望者の方が多く重視している項目(差の昇順)

